

『東中野今昔ものがたり』寄稿して8年

この土地に生まれ、この町で育ち、以来80有余年、この町の姿の移り変わりをこの儘にしておくのほと思ひ、平成10年秋、地域センターの方々と協議のなか『今昔ものがたり』を寄稿する事になりました。当初は2、3年位かと計画していましたが、いつの間にか8年と、50号を越す回数となりました。

一つのテーマを掲げ、いざ書こうとすると過去の事、知っているようで、「何時、誰が、何処で」となると全く自信がなく、中野区立歴史民俗資料館、区の図書館、東京都庁、新宿区の資料館などに出掛け資料をコピーし、都庁では「借用証」を一筆書いて都庁から借り、原稿を書くこともありました。

何といつてもわが町を蛇行する「神田川」支流での魚とり、また昆虫の宝庫であった「華洲園」、クワガタやカブトムシは余り労せずして見つける事が出来ました。神田川の改修と併せて整備された早稲田通りも昭和の初期に行なわれ、二・二六事件のあった昭和11年、戒厳令が引かれて家から出てはならぬ時、一人で積雪30センチメートル、車1台通らぬ早稲田通りに出て行き母にしかられた思い出があります。

『東中野駅』今年が開業して百年ということ、その前の『柏木』と言う駅は知りませんが、この町の中心地として無くてはならぬ存在でした。日の丸の襷をかけ、歓呼の声に送られて出征した昭和20年2月、私は此の駅から戦地に向かいました。そして翌21年1月、約1年ぶりで復員し、この駅の改札を出た時、目の前の町の姿は一変していました。

言うまでもなく空襲で往年の住吉町、小滝町はありませんでした。しかし焼野が原になったこの町も、住民の復興への意欲、そして何よりこの町を愛する住民の意識が今日の四丁目、五丁目を立派につくりあげました。

この『今昔ものがたり』を作成するに当っては、地域センターの方々には色々ご指導ご配慮を戴き、有難く感謝をしております。

平成18年8月

東中野5丁目小滝町会

岸 恒夫